

第 5 7 2 回遊佐町議会定例会一般質問通告書

令和 6 年 6 月定例会

通告 順	通 告 者	質 問 事 項	要 旨
1	9 番 菅原 和幸 (一問一答)	1. 町長給与の特例措置の今後の対応について	前町長の急逝に伴い 3 月 2 4 日執行された町長選挙において、今後 4 年間町政を担うことになった町長。「よいゆざまちに」をスローガンに、前町長の町政を継続することを掲げ、「必要のない業務を減らし、町の実情にあった仕組みづくりを目指す」とし、公費削減、コスト削減に取り組むともコメントされております。 町長の給与月額額は、前町長が令和 3 年 3 月 1 日に専決処分し、特別職の職員の給与に関する条例第 3 条に定める額を 1 0 % 減額とする特例措置が令和 7 年 3 月 1 8 日までとなっています。この特例措置について、今後どう対応されるか。
		2. 「地域づくり」の拠点とする新道の駅整備を	日沿道が、遊佐鳥海インターチェンジまで開通した。遊佐 P A T (以下、「新道の駅」と記載)の整備について、町は昨年 1 2 月に建築基本設計者、指定管理候補者と契約を締結し進めている。 これまでの検討では、新道の駅を「ゲートウェイ」と位置付けている。新道の駅を「地域づくりの拠点」とし、町内に人の流れを誘導する仕組みを整えることも大切である。 平成 2 年に設立された「県道菅里直世下野沢線(谷地・升川間)整備促進期成同盟会」の活動もあり、同県道の未着工区間が、この 3 月に改訂された「山形県道路中期計画 2 0 2 8」に盛り込まれた。 小山崎遺跡遺構の一般公開を令和 1 5 年度までに目指すと公表するなど、新道の駅周辺で町が行う事業も想定され、将来的に財政負担増に繋がる。振興審議会等に諮ることを前提に、関連する事業の地域間調整、経済波及効果等の検証を行うべきと考える。

通告 順	通 告 者	質 問 事 項	要 旨
2	1番 遊佐 亮太 (一問一答)	1. 少子化の現状分析と対策について	・令和3年3月策定の計画期間令和3年度～令和6年度の第2期まち・ひと・しごと創生遊佐町総合戦略において、この4年間の累計出生数目標を250人、各年度の目標を概ね60人と設定していた。実際の出生数は令和3年度が44人、令和4年度が49人、令和5年度が29人、令和6年度は母子手帳発行に基づく11月2日までの出生見込み数だが23人となっている。各年度は目標値を下回っており、特に令和5年度については半分にも満たない。 ・出生数がここまで落ち込むと子供のいない、少ない集落も出てくると思われる。どの地区、どの集落がこういった状況であるかという分析は行われているのか。また、その分析を踏まえてどのような対策を行うのか。吹浦保育園の閉園が検討されているが、閉園が地区の出生数にどのような影響を与えるかなどについて過去の実例を踏まえた分析は行われているのか。 ・近隣の三川町が消滅可能性自治体から脱却したが、成功事例としてやられている施策等について質問をするという機会は作らないのか。 ・三川町に限らず、少子化対策、子育て政策について一定の成功を見ている自治体は他にもあるが、そういった事例の分析を行うことも当町の政策立案について重要なことと認識している。 ・複数部署にまたぐ取り組みになるが、当町においてはどの部署が主体的役割を担うのか。まち・ひと・しごと創生総合戦略については企画課企画係が取りまとめを行ったと聞いているが、今後もその認識で良いか。 ・まち・ひと・しごと総合戦略においては出生数といった重要な数値に対して目標値を設定している。目標値を設定するということはその数字を追うべき努力をし、常に現状分析と対策、いわゆるPDCAサイクル「Plan＝計画」「Do＝実行」「Check＝評価」「Action＝改善」を回していくものだが、その主体は企画課企画係になるという認識で良いか。

通告 順	通 告 者	質 問 事 項	要 旨
3	8 番 佐藤 俊太郎 (一問一答)	1. 町が抱える重要な課題として三本の柱に組み立てた経緯は	①「防災に強いまちづくり。地震や洪水などの自然災害に備え、適切な対策を講じるため、緊急避難所計画の改善や訓練の実施を推進する。また、防災意識の向上を図るため、町民の皆様への情報提供や啓発活動にも取り組む。」とあるが、令和4年12月策定の「遊佐町地域防災計画」に基づき自然災害等の対策実施中であるがその何処が課題でどう改善するのかお伺いいたします。 ②「多様性のある様々な価値観を持った町民がみな暮らしやすいまちづくりを進める。誰もが自分らしく輝ける環境を整えるため、職員の皆様には積極的なコミュニケーションと相互理解を促し、町民の声に耳を傾けそのニーズに応えるための施策を充実させる。」とあるが、この施策はどのようなものかお伺いいたします。 ③「町民主役のまちづくりを実現するため、職員の皆さんが自分を大事にするまちづくりを掲げ、職員の働き方改革に取り組む。」とあるが、その働き方改革とはどのようなものかお伺いいたします。
		2. 特に素早く取り組みたい事象は	「公費削減のため町長車の利用とコスト削減に努める。」とあるが、現在までのその成果をお伺いいたします。

通告 順	通 告 者	質 問 事 項	要 旨
4	4 番 今野 博義 (一問一答)	1. 新町長の今後の町政について	新町長の初めての定例会にあたり、これからの遊佐町をどのように未来へ進めていくのか、考え方・政策を伺う。民間有識者グループ「人口戦略会議」は今年4月、全国の4割にあたる744自治体が消滅の可能性があると分析し、遊佐町も該当するとされた。昨年、小学校の統合を終え、町全体が縮小に向かっているかのように見えるなか、今後の遊佐町の展望・未来像を町長自らの言葉で示していただきたい。
		2. これからの地域づくりについて	高瀬・蔵岡まちづくりセンターの移転に向け令和6年度一般会計予算も可決され計画が進んでいる。令和5年12月定例会でも一般質問したが蔵岡まちづくりセンターについては旧蔵岡小学校校舎移転を計画するも、改築・増築・間取りの変更が出来ず講堂的設備が整わないため地域住民の理解が得られていなかった。先の町政座談会蔵岡地区では「講堂的設備を増築も検討」とあったようだが、高瀬・蔵岡まちづくりセンター移転の進捗状況をお聞きする。 また、令和6年4月9日全員協議会で農業者トレーニングセンターでアスベスト検出、同3月15日3施設での検体調査を行った旨の説明があった。地域には他にも多くの公共施設がある。この3施設限定での検体調査に至った経緯をお聞きする。 町HPの町長あいさつにて「職員の働き方改革」を宣言されている。現在の地域づくりは各まちづくりセンター運営団体の担うところが大きい。会長・事務局長・事務職員のボランティア精神の上に成り立っていると推察するが、今後の処遇改善に向けての町の取り組みをお聞きする。

通告 順	通 告 者	質 問 事 項	要 旨
5	7 番 那須 正幸 (一問一答)	1. 国道345は町の玄 関口、ごみの不 法投棄対策は	国道345号線は、国道47号狩川矢倉交差点から国道7号女鹿交差点まで庄内町・酒田市・遊佐町3町を結ぶ主要道路である。当町の南北に延びる道路でもあり、町の玄関口に当たる道路でもある。町内の345号線上の真ん中に当たる場所には現在「新道の駅」が建設中で鳥海インター開通により、今後町内の観光を始めとしてより一層町の賑わいが期待される。現在7号線上には道の駅ふらっとやコンビニなどがあり観光客などで賑わっているが、賑わいが多分マナーの悪い方多いようだ。接続する7号線西浜地内から遊佐に向かい345号線の緩やかなカーブを登っていくと、道路の左右には紙や空き缶などのごみの不法投棄が常時あり、看板やのぼりでの注意啓発も行っているが一向に減る様子はない。中ほどには「遊ぼっと」の入り口もあり多くの利用もある中、ごみの投げ捨ては県道353号の交差点の西鳥海橋付近まで続いている。現在の注意喚起だけでよいのだろうか、町としての不法投棄対策を伺う。
		2. 町で応援する 「メタバース婚活 とは」	今までの婚活といえば自治体や企業が企画するパーティーに参加したり、結婚相談所を利用するイメージを抱いていたが、「メタバース婚活」ではどのような形・流れで行うのか。メリットやデメリットを含めその内容を伺う。
6	5 番 渋谷 敏 (一問一答)	1. 町のブランド推 進事業の現状・ 課題と今後の方 策について	民間組織「人口戦略会議」の報道によると、今後30年間で女性人口減を根拠とした消滅可能性自治体が本県の8割の28自治体が該当した。事態の深刻さから、各自治体は移住・定住策、子育て支援策や選ばれるまちづくりのためのブランディング等を課題にあげている。 また、今年度の施政方針では、地域の産業振興と町の地域活性化拠点施設の加工場を拠点とした遊佐ブランド推進事業と連携した加工品のブランド化と販路拡大に努めるとしている。 このことから、遊佐町が将来の生き残りをかけて行うブランド事業を今後どのようにすすめていくのかお伺いします。 ・これまでのブランド事業の経緯と現状をどのように実施しているか。 ・遊佐ブランド事業の課題について。 ・町がブランドテーマを掲げ今後目標とする事業を展開するための施策は。

通告 順	通 告 者	質 問 事 項	要 旨
7	2 番 伊原 ひとみ (一問一答)	1. 西遊佐地区にある各工業団地の企業と町との防災協力について	本年1月1日に起こった能登半島地震、遡って令和1年6月18日の山形県沖地震の際、津波注意報や警報が出され、暗い中海岸付近の住民は高台に避難した。白木集落に於いては鳥海南工業団地に多数避難したが防災無線が無い為情報が届かず不安な思いをしたと聞く。これが平日の日中の災害となった場合、近隣の工業団地の従業員、住民を含めると数百人の避難者が出ると想定される。 ① 鳥海南工業団地付近への防災無線の設置はどうか ② 鳥海南工業団地、遊佐町工業団地、遊佐西部工業団地等の企業と町との基本的な防災協力、協定のお考えはあるか。
		2. 新規就農者を確保する手だては「地域計画」の策定の進捗状況について	どの自治体、どの業種も人材を確保することは容易ではないことは承知しているが、就農者を増やすことは重要事項。 町としてどのような手だてを講じているのか。 ① R4、R5の新規就農者数とR6の目標数、また、広報活動の方法 ② 就農者のための事業が3つ程あるようだがそれぞれ説明を問う。 ・元気な担い手農業担い手育成支援事業 ・経営継承、発展支援事業 ・新規就農者育成総合対策事業 昨年あたりから進み始めた「地域計画」の策定について、遊佐町も今年度から話し合い設けるところまで進んだ、と聞いております。「地域計画」の策定についての具体的な説明と話し合いの状況を問う。

通告 順	通 告 者	質 問 事 項	要 旨
8	3 番 駒井 江美子 (一問一答)	1. 洋上風力発電事業について	来町した地震工学、防災専門家が津波に対する洋上風力風車の安全性について懸念を示していた。そこで新町長に下記の点をお聞きする。 ①「防災に強いまちづくり」を掲げているが洋上風力の開発により災害のリスクが高まる可能性をどうとらえているか。 ②この事業のメリットデメリットについて住民を含め話す場を設けてほしい。
		2. 給食費の無償化について	新町長は公約の一つ、給食費の無償化についてどのようなスケジュールで実施予定かお聞きする。
9	11 番 斎藤 弥志夫 (一問一答)	1. 施政方針いくつかの事業	3月定例会で副町長が示した施政方針を新町長が100%引き継ぐとみなしてよいのだろうか、いくつかの事業について新町長の所信を問うものである。 あちこちの首長が洋上風力発電に大賛成で期待に次ぐ期待を並べている。酒田港が基地港湾に指定されたことも建設工事の前進である。メンテナンスの仕事が多いと言われているので、技術者を養成することも必要である。町有地を有効活用して観光に結び付けることは高い付加価値を生む方式である。比子インター近くで7号沿いに2haの放棄地のような町有地があるがここを花公園に整備することは簡単にできて荒地の有効活用である。 白木の栄橋の撤去は具体的にどのような計画なのか。解体を国の予算で行う予定のようだが予算の獲得の目途はたっているのか。作業ヤードはまだ見当たらないようだが、準備はどうなっているのか。 旧藤崎小学校の一部を餅加工の作業場に改造して餅を生産する案がある。この餅屋の餅は地元の直売所に並べられるのではなく、ファンが多くいる関東方面の生活クラブ生協に出荷されとのことである。餅屋のシミュレーションがかなり計画性の高いもので空き校舎利活用の見本となるような生産を是非やってもらいたい。 新道の駅の整備では、重点道の駅でもなければ防災道の駅でもない状況である。インターネットは常識であるので客集めのためにWi-Fiの整備はもちろん行って当たり前である。火災の時に十分な消防活動を行うには消火栓の1つや2つでは心もとないし、本格的な防火水槽を整備して安心安全な道の駅にする必要がある。建物の耐震・耐火構造も安全な道の駅に欠かせない。

通告 順	通 告 者	質 問 事 項	要 旨
10	6 番 本間 知広 (一問一答)	1. 「遊佐町都市計 画区域」の見直 しを	「消滅可能性のある自治体」がにわかにクローズアップされている。それは、人口が減少しているからに他ならない。その対策について、これまでも「移住・定住」についてなど質問してきた経緯がある。今回は町の「都市計画」について質問する。 都市計画法は昭和43年6月に制定され、主に違法建築などによる地域の乱開発を防止するため運用されてきた。町の都市計画区域は「遊佐地区」・「吹浦地区」・「西遊佐地区」の3つあり、それぞれ昭和の時代に設定され、これまで宅地などの造成が行われてきた。そして現在、今後「20年後を見据えた町の将来像を示す」とされた「遊佐町都市計画マスタープラン」が令和4年2月に策定されている。 この区域を今後のまちづくりにどう生かしていくかが課題であり、またチャンスでもあるのではと考える。特に区域の設定については、今の環境に即したものに见直すことにより、より活用しやすいものになっていく可能性があると思うが所見を伺う。